

2022年3月期 第1四半期

クリモトグループ決算説明資料

A larger version of the Kurimoto logo, featuring the word "KURIMOTO" in a bold, blue, sans-serif font. The letter "K" is stylized with a red horizontal bar extending from its top left corner.

目次

1. 2022年3月期 第1四半期実績
 2. 2022年3月期業績予想
 3. 株主還元
 4. トピックス
- ## 参考資料

※2021年4月、事業セグメント名および事業部名を下記のとおり改称しました。
本資料では、過年度においても改称後の名称で表記しております。
なお、当改称による決算数値の変更はございません。

改称前	改称後
「パイプシステムセグメント」	→ 「ライフラインセグメント」
「鉄管事業部」	→ 「パイプシステム事業部」
「バルブ事業部」	→ 「バルブシステム事業部」

1. 2022年3月期 第1四半期実績

※収益認識会計基準等の適用による影響について

2022年3月期より適用。適用年度以前は遡及適用していません。

これにより、売上高は488百万円減少、売上原価は439百万円減少、販売費及び一般管理費は49百万円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

また、セグメント別では「ライフライン事業」の売上高は435百万円減少、「産業建設資材事業」の売上高は52百万円減少しましたが、セグメント利益又はセグメント損失に与える影響はありません。

1 - 1 決算概要

(単位：百万円)

<連結>

	2021.3 1Q 実績		2022.3 1Q 実績		前年比 (B-A)	2022.3 直近予想値※	
	(A)		(B)			(C)	
売上高	25,963	-	21,686	-	▲ 4,277	107,000	-
営業損益(率)	893	(3.4%)	41	(0.2%)	▲ 851	3,500	(3.3%)
経常損益(率)	863	(3.3%)	12	(0.1%)	▲ 850	3,500	(3.3%)
四半期純利益(率)	581	(2.2%)	10	(0.0%)	▲ 570	2,300	(2.1%)

※直近予想値 (C) : 2021年5月13日公表値

売上高

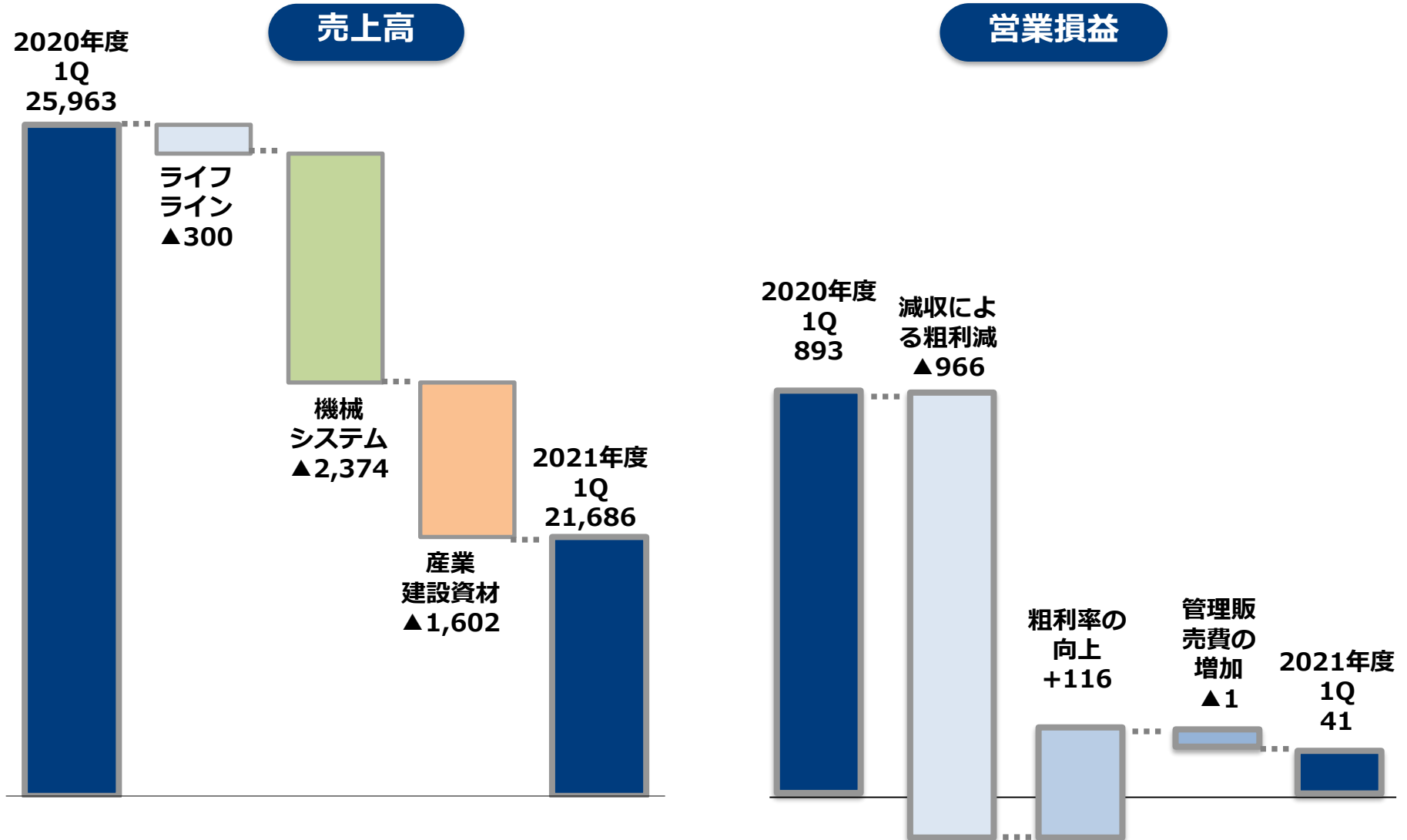
官需分野での出荷量の微減に加えて、民需分野にて新型コロナウイルスの影響による前年度受注減により大型物件の出荷が無かったことなどにより、前年同期比 4,277百万円の減収。

営業損益

売上高減少にともなう粗利益減少などにより、前年同期比851百万円の減益。

1 - 2 売上高・営業損益比較

(単位：百万円)



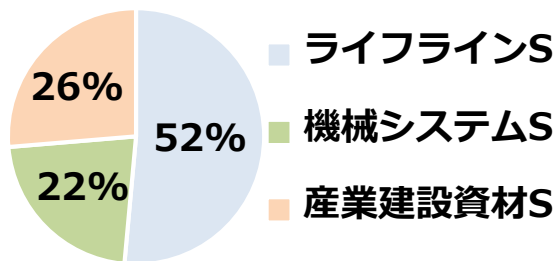
1 - 3 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2021.3 1Q 実績 (A)	2022.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)
ライフライン セグメント	売上高	11,455	11,155	▲ 300
	営業損益	318	274	▲ 43
	(率)	(2.8%)	(2.5%)	(▲0.3pts)
機械システム セグメント	売上高	7,196	4,822	▲ 2,374
	営業損益	84	▲ 179	▲ 264
	(率)	(1.2%)	(▲3.7%)	(▲4.9pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	7,311	5,708	▲ 1,602
	営業損益	395	69	▲ 325
	(率)	(5.4%)	(1.2%)	(▲4.2pts)

※営業損益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

セグメント別売上高構成比率



※参考

セグメント四半期別推移：本資料21ページ「参考資料3」

※2022.3 1Q 実績（連結）

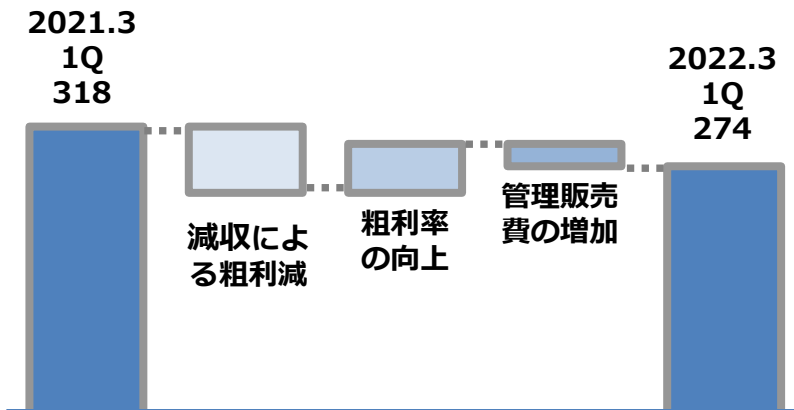
1 - 4 事業セグメント別概況

ライフラインセグメント

(単位：百万円)

	2021.3 1Q 実績 (A)	2022.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 計画値 (C)
売上高	11,455	11,155	▲ 300	54,200
営業損益 (率)	318	274	▲ 43	2,400
(率)	(2.8%)	(2.5%)	(▲0.3pts)	(4.4%)

営業損益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業損益

売上高

バルブシステム部門では出荷が若干増加したものの、パイプシステム部門で出荷量が若干減少したことなどにより、前年同期比300百万円減収

営業損益

減収による粗利益の減少および原材料価格の高止まりなどにより、前年同期比43百万円減益

1 - 4 事業セグメント別概況

機械システムセグメント

(単位：百万円)

	2021.3 1Q 実績 (A)	2022.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 計画値 (C)
売上高	7,196	4,822	▲ 2,374	23,300
営業損益 (率)	84	▲ 179	▲ 264	200
(率)	(1.2%)	(▲3.7%)	(▲4.9pts)	(0.9%)

営業損益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業損益

売上高

機械部門で新型コロナウイルスの影響による前年度受注減により大型物件の出荷が無かったことなどにより、前年同期比2,374百万円減収

営業損益

粗利益率の向上および管理販売費の減少に努めたものの、機械部門の減収などにより、前年同期比264百万円減益

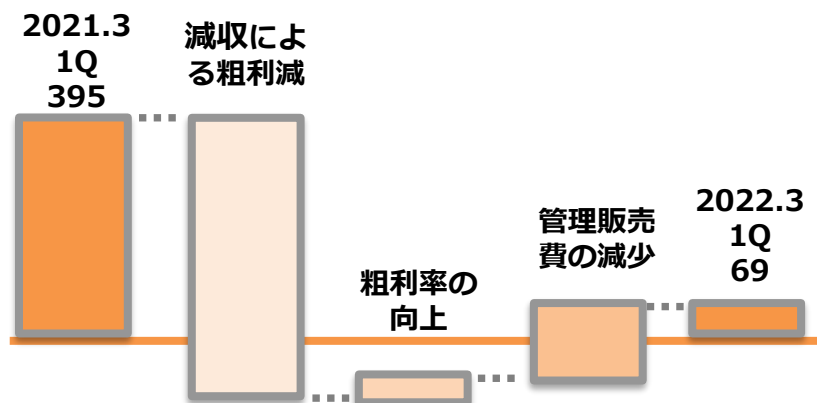
1 - 4 事業セグメント別概況

産業建設資材システムセグメント

(単位：百万円)

	2021.3 1Q 実績 (A)	2022.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2022.3 計画値 (C)
売上高	7,311	5,708	▲ 1,602	29,500
営業損益 (率)	395	69	▲ 325	900
(率)	(5.4%)	(1.2%)	(▲4.2pts)	(3.1%)

営業損益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業損益

売上高

建材部門で消音製品および土木製品を中心に出荷が減少したことなどに加え、化成品部門でも電力、下水道向けなどの出荷が減少したことなどより、前年同期比1,602百万円減収

営業損益

粗利益率の向上および管理販売費の減少に努めたものの、建材部門の減収などにより、前年同期比325百万円減益

2. 2022年3月期業績予想

※収益認識会計基準等の適用による影響について

記載の数値は収益認識会計基準等を適用しており、2021年5月13日公表の数値より変更ございません。

2 - 1 2022年3月期 業績予想

(単位：百万円)

連結	2021.3 実績 (A)		2022.3 予想 (B)		前年比 (B-A)	
売上高	116,596	-	107,000	-	▲ 9,596	-
営業損益(率)	4,673	(4.0%)	3,500	(3.3%)	▲ 1,173	(▲0.7pts)
経常損益(率)	4,583	(3.9%)	3,500	(3.3%)	▲ 1,083	(▲0.6pts)
当期純損益(率)	3,174	(2.7%)	2,300	(2.1%)	▲ 874	(▲0.6pts)
自己資本利益(率)	-	(5.2%)	-	(3.6%)	-	(▲1.6pts)

当社グループの主要事業セグメントは官需分野で底堅いものの、民需分野においては2021年3月期に大型工事進行基準物件の売上計上が集中した反動ならびに一部新型コロナウイルス感染症による一時的な投資の手控えによる影響があり、減収減益の見込み。

2-2 2022年3月期 業績予想 (セグメント別)

(単位：百万円)

連結		2021.3 実績 (A)	2022.3 予想 (B)	前年比 (A-B)
ライフライン セグメント	売上高	56,185	54,200	▲1,985
	営業損益	3,087	2,400	▲ 687
	(率)	(5.5%)	(4.4%)	(▲1.1pts)
機械システム セグメント	売上高	31,184	23,300	▲ 7,884
	営業損益	610	200	▲ 410
	(率)	(2.0%)	(0.9%)	(▲1.1pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	29,226	29,500	274
	営業損益	1,074	900	▲ 174
	(率)	(3.7%)	(3.1%)	(▲0.6pts)

※営業損益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

ライフラインセグメント：需要は前期なみと予想も、前期への前倒し出荷ならびに
原材料費高騰などにより減収減益の見込み

機械システムセグメント：前期に大型工事進行基準物件の売上計上が集中した反動
ならびに一時的な投資手控えの影響により減収減益の見込み

産業建設資材セグメント：道路インフラ分野での出荷増、空調分野での回復により
増収を見込むも、原材料費高騰などにより減益の見込み

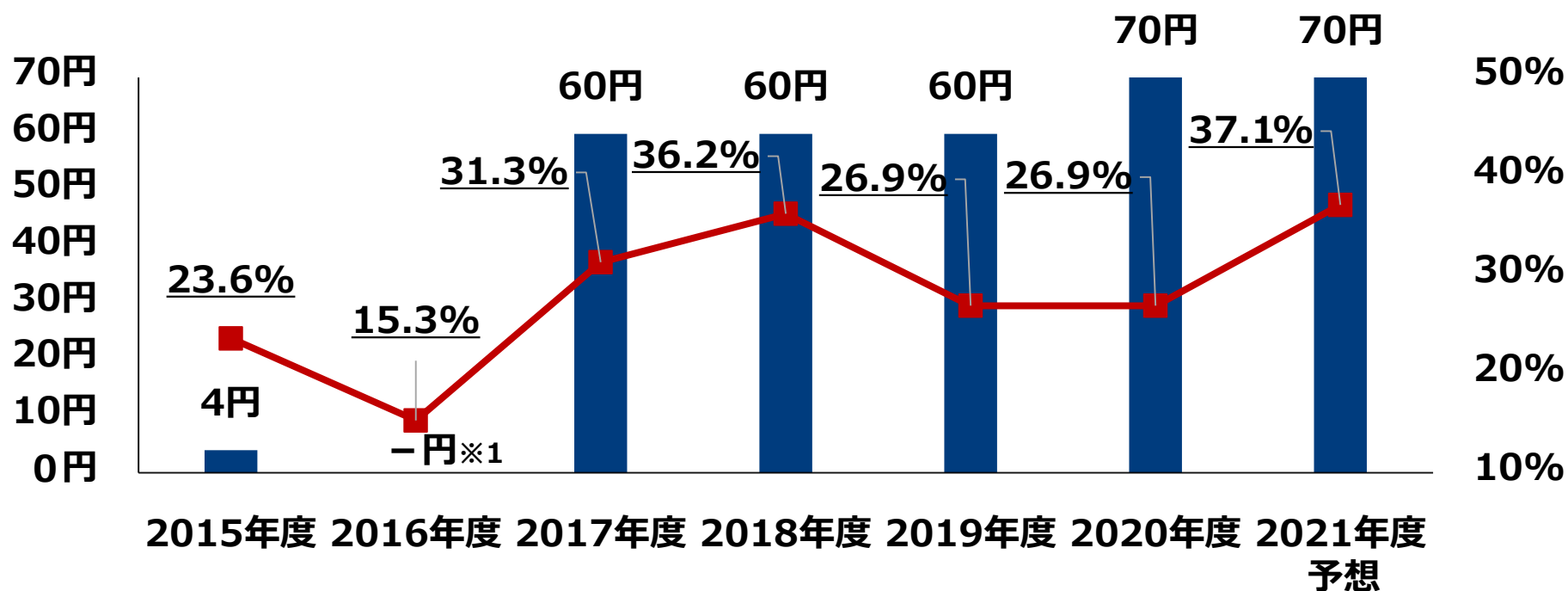
3. 株主還元

3 株主還元に関する指標

成長投資とのバランスを鑑みつつ、ステークホルダーの皆様の期待に応える株主還元を実施するべく、配当性向30%超を目指してまいります。

一株あたり配当額・配当性向推移(連結)

■ 配当額 (円) ■ 配当性向 (%)



※1 2016年10月1日を効力発生日として当社普通株式について10株を1株に併合。
2016年度の年間配当額合計は単純に合算できないため「-」として表示しています。

4.トピックス

4. トピックス

CSR推進室新設（2021年7月）

✓CSRおよびSDGs推進のさらなる加速を目的に専門部署を設置

✓環境に関する定量的な経営目標を検討・策定中

栗本鐵工所のESG重要課題（マテリアリティ）とSDGs

ISO26000 中核主題	ESG項目		ESG重要課題（マテリアリティ）	栗本鐵工所の取り組み	
				SDGsへの貢献	
組織統治	G	健全、公正な事業運営	ガバナンス強化・腐敗防止		
人権	S	安全で働きがいのある企業風土	ダイバーシティ&インクルージョンの推進		
労働慣行			高付加価値で生産性の高い職場環境の構築		
公正な事業慣行			公正な取引	サプライチェーンの評価・管理	
消費者課題	S	安全・安心な製品、サービスの提供	製品・サービスに関する適切な情報提供		
			品質・安全性・信頼性の確保と適切な供給体制の確立		
			顧客満足に繋がる最適システムの提案		
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展		地域社会への貢献	地域コミュニティとの良好な関係		
環境	E	地球環境保全	気候変動対策		
			循環型社会への貢献		



2021年7月
KURIMOTO
REPORT 2021
(事業・CSR報告書)

3 トピックス

環境に配慮した製品例

- ・環境配慮型水系塗料の開発とGX形ダクティル鉄管への導入（研究開発）

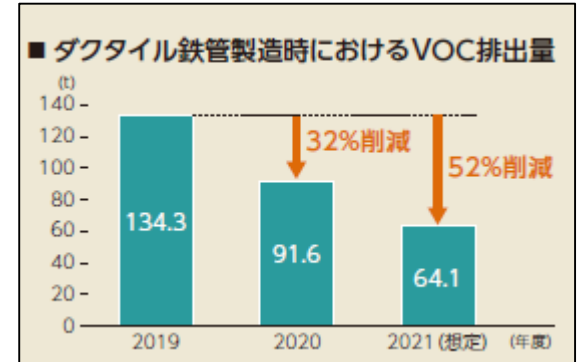
→光化学スモッグ（光化学オキシダント）の原因物質である揮発性有機化合物（VOC）排出量を削減

- ・コルエアダクト®

再生紙とアルミニウム箔を材料として作られた軽量で保温性がある低圧用空調及び換気用ダクト。廃棄時にアルミニウム箔と段ボールを分離することで、段ボールのリサイクルが可能。

→従来の鋼板製ダクト比 重量 : 1 / 5
Co2排出量 : 1 / 4 ※

※CO2排出量は「LCAデータベース（財）日本建築学会編 2005」に基づいて算出。生産時。



環境配慮型水系塗料を施したGX形ダクティル鉄管



コルエアダクト

参考資料

参考資料 1 事業概要

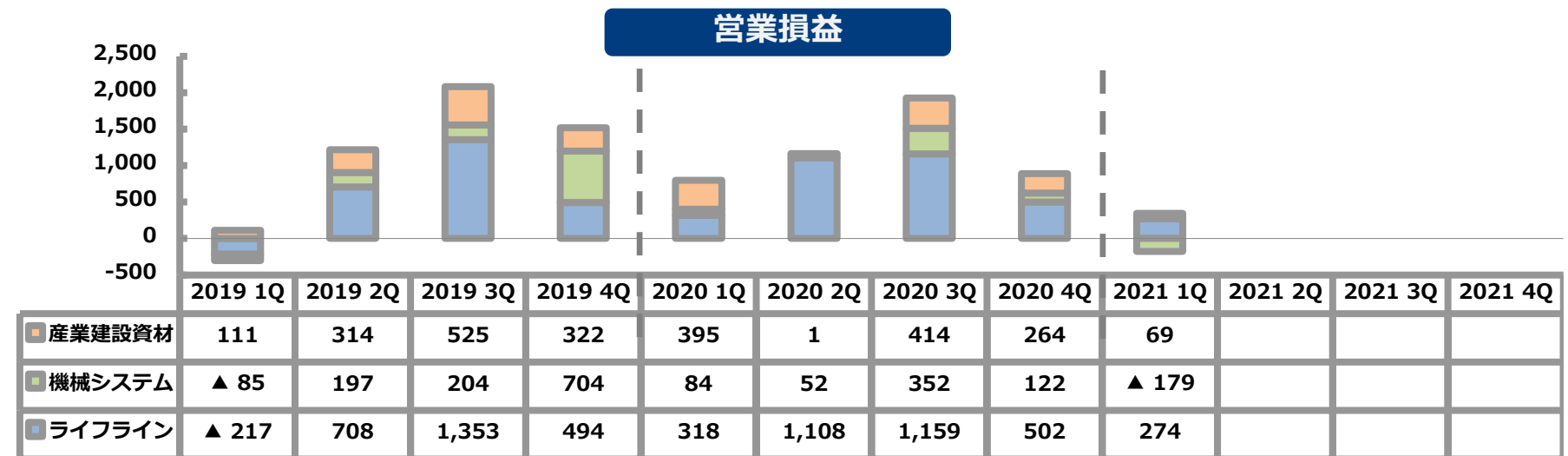
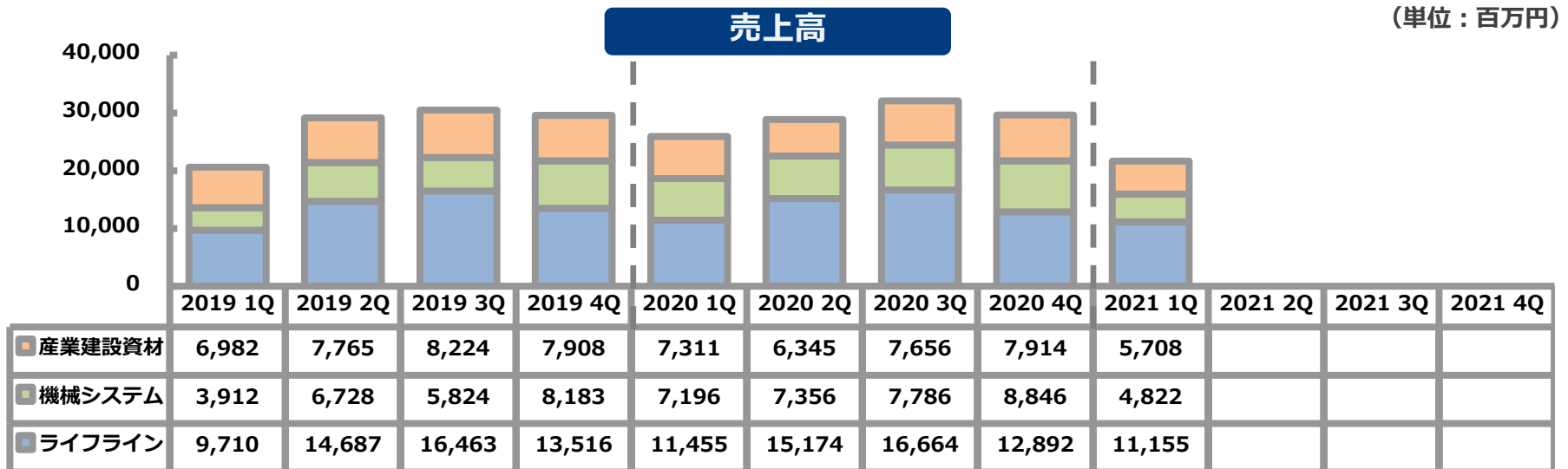
商号	株式会社栗本鐵工所 Kurimoto,Ltd.
創立	1909年2月2日（明治42年）
設立	1934年5月10日（昭和9年）
代表者	代表取締役社長 菊本 一高
資本金	311億円（2021年3月末現在）
従業員数	2,113名（2021年3月末現在・連結） 1,342名（2021年3月末現在・単体）
上場証券取引所	東証一部（証券コード：5602）



参考資料 2 事業部門の構成と主な製品 (栗本鐵工所)

事業セグメント	事業部	主な製品	製品例	主な需要先
ライフラインセグメント	パイプシステム	ダクタイトル鉄管類	 S50形ダクタイトル鉄管	水道事業者
	バルブシステム	水道用バルブ、産業バルブ	 ソフトシール仕切弁	水道事業者、製鉄・電力等各種プラント、ポンプメーカー
機械システムセグメント	機械システム	鍛造プレス	 ダイレクトサーボプレス	自動車関連メーカー
		粉体処理機	 KRCニーダ	カーボン、エンブラ、二次電池関連メーカー 他
		プラントエンジニアリング		各国の資源開発事業者 プラントエンジニアリング企業
	素形材エンジニアリング	耐磨耗鋳物、破碎機	 自走式 (モバイル) クラッシャ	鉄鋼、セメント、電力、砕石関連企業
産業建設資材セグメント	建材	建築資材	 スパイラルダクト	管材商社、空調設備業者、ゼネコン等
	化成品	FRP(M)製品	 FRP製フィルム巻取コア	国・地方公共団体、電力会社、ゼネコン、フィルム関連メーカー

参考資料 3 セグメント四半期別推移 (連結)

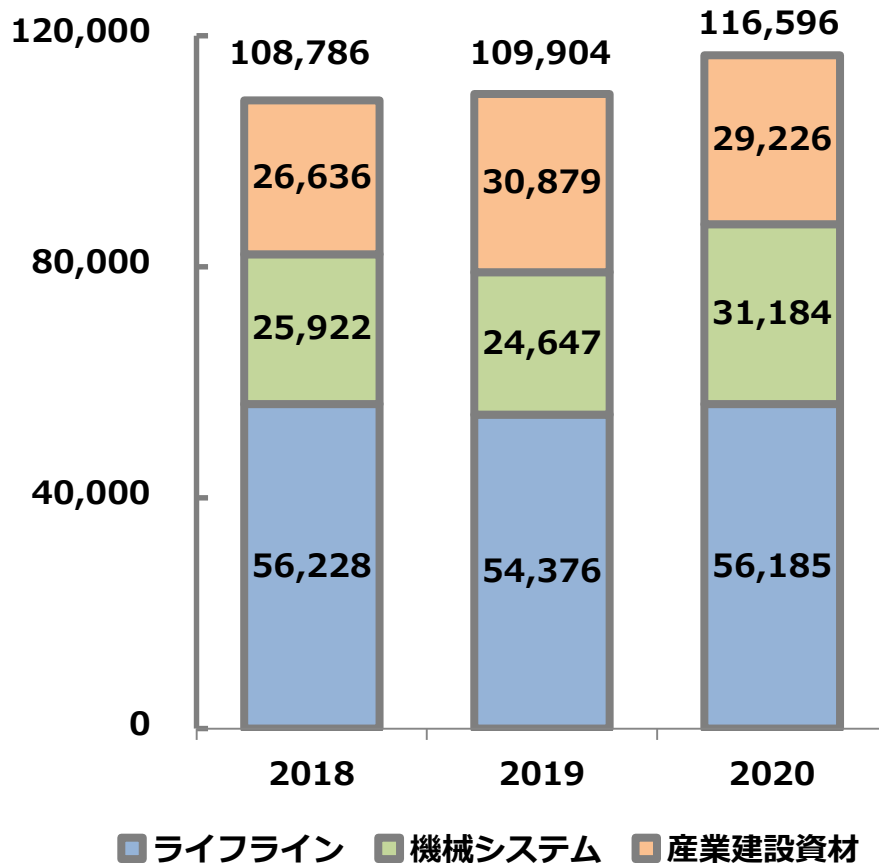


※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

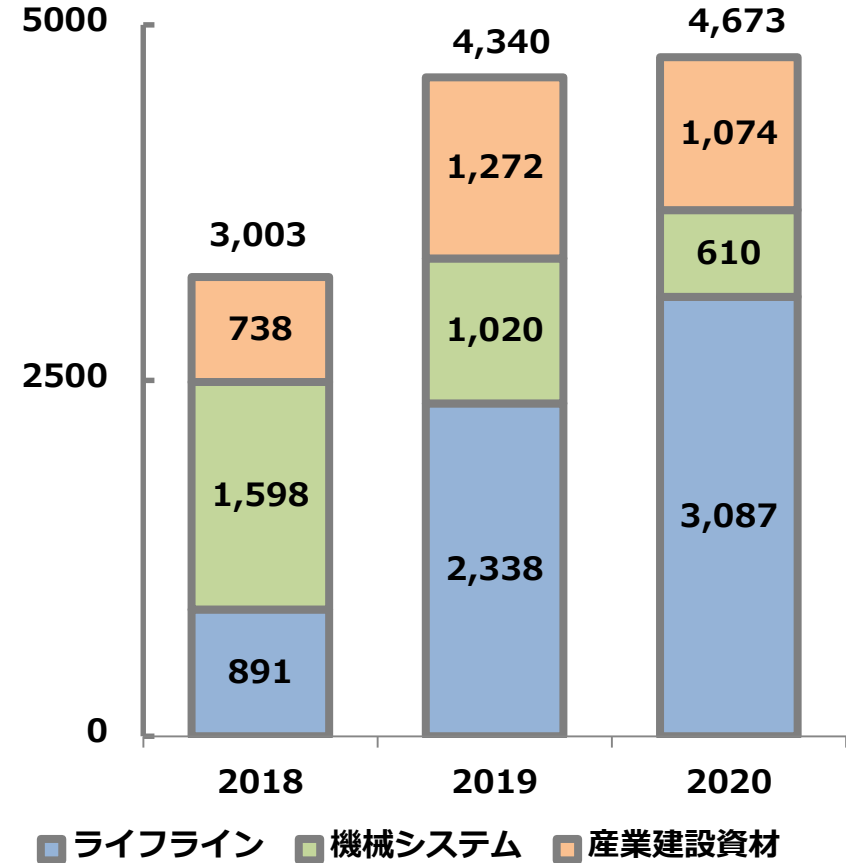
参考資料 4 セグメント別業績推移

(単位：百万円)

売上高

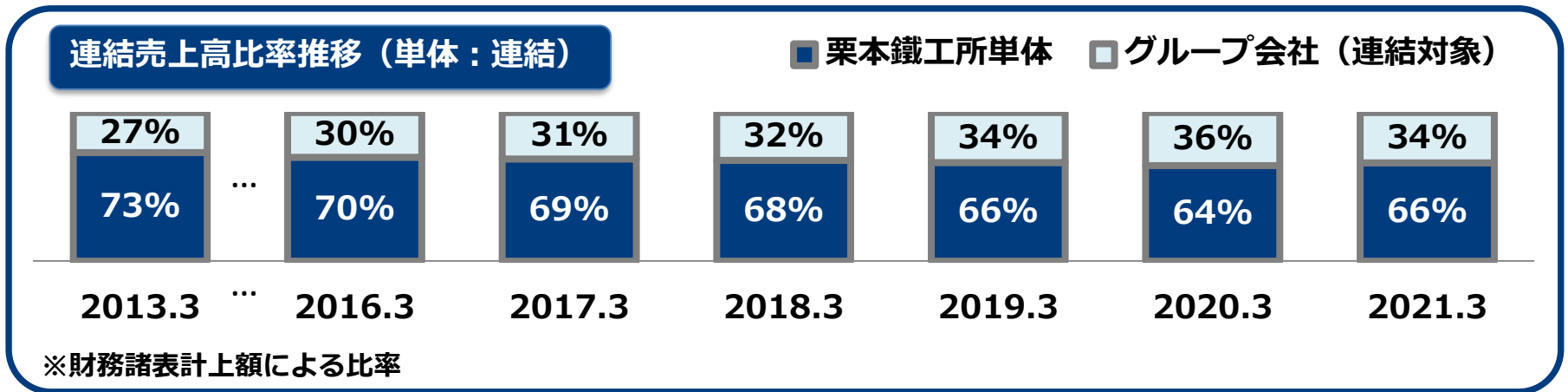
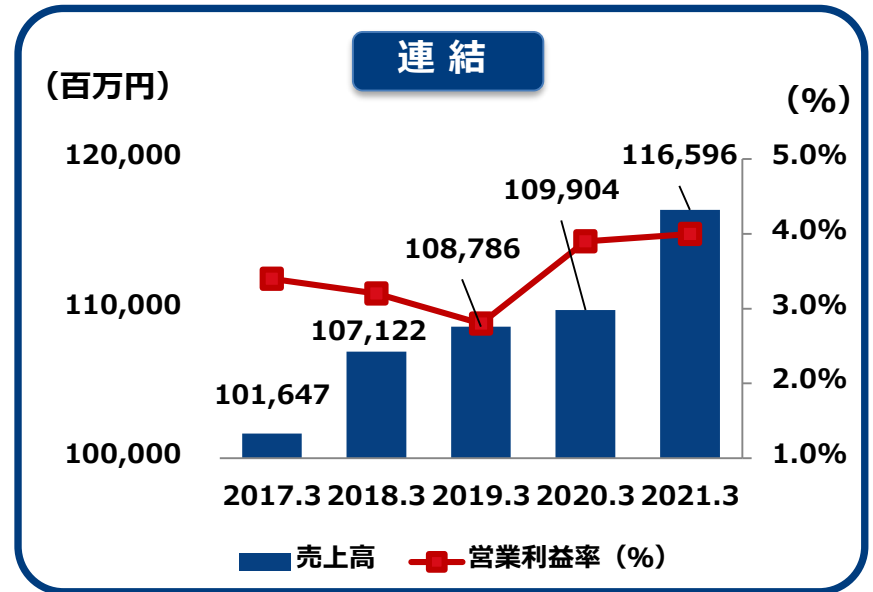
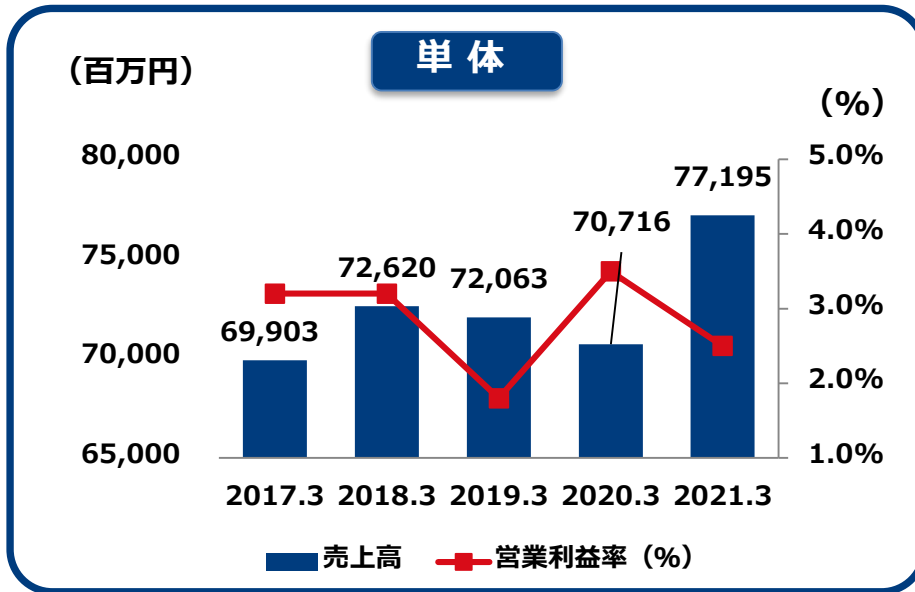


営業利益



※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

参考資料 5 売上・営業利益率推移 (単体・連結)



資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

問い合わせ先
株式会社栗本鐵工所 総合企画室
TEL:06-6538-7719
<http://www.kurimoto.co.jp/>

KURIMOTO